



広島大学 情報教育研究センターだより

創刊号

平成9年11月27日

tel: 0824-24-6594 fax: 0824-20-0099 mailto: center-jimu@riise.hiroshima-u.ac.jp http://www.riise.hiroshima-u.ac.jp/

センター利用案内

広島大学情報教育研究センター(RIISE、Research Institute for Information Science and Education)は平成8年10月に発足し、平成9年4年から西図書館北側の一角にコンピュータ演習室をオープンしました。当センターは、教養的教育における情報教育の支援を行うとともに、学生が自主的にコンピュータを利用した学習ができる環境を整備する目的で設立されたものです。センター演習室には94台のコンピュータ(NEXTSTEP)が設置されており、学生はもちろん、当センターに利用申請をされている人であれば、自由に利用する事ができます。本学の学生、教職員であれば利用資格を持ちますので、ご利用になりたい方はコンピュータ演習室奥の準備室(内線5452)に用意した利用申請書に記入してください。

センター開館時間

- 月曜から金曜 : 朝9時~夜9時
- 土曜(11/8から) : 朝9時~夕方5時
- 演習室の場所 : 西図書館入口を右へ
- 学生証あるいは職員証を入口のカードリーダーに通す事でドアの鍵が開きます。

ユーザーソフトウェア環境

- オペレーティングシステム : NEXTSTEP 3.3J
- WWWブラウザ : OmniWeb 2.5J
- 電子メール : Mail
- ネットニュースリーダー : NewsBase
- 表計算ソフトウェア : LQ 2.0J
- 日本語ワードプロセッサ : 文机 2.01
- 作図ソフトウェア : Diagram! 2
- 描画ソフトウェア : WetPaint
- 図形描画 : Draw

- 2, 3次元グラフ描画ソフト : Gnuplot
- プレゼンテーションソフト : LightShow
- X- ウィンドウシステム : CubX Window
- Webster Dictionary : Webster
- VT100 ターミナルエミュレーター : Terminal
- 辞書(広辞苑、研究社中英和、研究社中和英) : Dictionary
- C,FORTRAN,PASCALプログラミング支援ソフト : StepJump
- 数式処理ソフトウェア : Mathematica 2.2
- LaTeX, TeX を用いた文書整形支援ソフト : EasyTeXBuilder

他

初心者講習会

10月15日15時~18時、10月17日17時~20時の2回、初心者講習会を行いました。1年から4年までの22名の方が参加し、アットホームな雰囲気の中で、コンピュータの使い方を学びました。

市民講座

大学祭期間中の11月2日、総合科学部のご協力を得て市民講座を開催しました。当日は11時から66時まで46名の方が参加して午前中は講義、午後はカレンダー作りに取り組みました。後日の郵送によるアンケートには、多くの方がまた参加したいと回答を寄せられました。センターにとって初めての学外に向けた企画で、貴重な経験を積みました。

「知的生活を広げるマルチメディアの活用法」

広島大学総合科学部 助教授 吉田 光演

「コンピュータ社会の病理」

広島大学総合科学部 助教授 岩永 誠

「体験してみよう、マルチメディア」

情報教育研究センター

初心者のための情報活用講習会のお知らせ

対象：全学生

場所：情報教育研究センター端末室（西図書館内）

定員：毎回 30 名

講師：宮尾 淳一（総合科学部）

申込：情報教育研究センター準備室

受付（定員になり次第終了）

* 総合科学部：11月26日（水）～

* それ以外の学部：11月28日（金）～

日程と内容

12月5日（金）初めての電子メールとwww

12月12日（金）初めてのホームページ作り
（その1）

12月19日（金）初めてのホームページ作り
（その2）

* 上記講習会時間：全て16：45～18：20

設立記念式・記念講演のお知らせ

平成9年11月28日（金）14：00～

総合科学部第一会議室

主催：広島大学外国語教育研究センター
広島大学情報教育研究センター

設立記念式 14：00～ 総合科学部第一会議室

記念講演 14：50～ 同上

講演者 菊川 健（メディア教育開発センター教授）
テーマ 「マルチメディアを活用した高等教育の
現状と将来展望」

施設見学 16：00～

祝賀会 17：00～ 総合科学部第一会議室

問い合わせ：広島大学総合科学部庶務係
（センター事務）
（TEL 0824-24-6594）

S君の夜番日誌

そろそろ5時。今日はセンターの夜の当番の日だ。計算の途中だが、遅刻すると5時まで勤務のH崎さんの怖い顔を拝むことになる。続きはセンターからでもできるし、早めに仕事に行くとしよう。

研究室からセンターまでは歩いて3分。ここからセンターの端末が確認できる。書きかけの論文を片手にセンターに行くと、100台近くある端末が全て埋まっている。授業中でもないのに、なんやこれは？

事務室に入ると、H崎さんが帰り支度をされていた。

「今日はすごい人ですね。」

「ええ、みんなメールを書いているみたいなんです。」

そうか、レポートの提出締め切りが近いんだ。情報活用演習のレポートをメールで提出するのが課題であり、その期限がせまっているわけである。端末室をのぞくと、端末にありつけない、あぶれた学生で立ち見状態になっている。今日の仕事は忙しくなりそうだ。

私の仕事はこのセンターの夜の管理。9時までセンターは開いているが、5時以降は職員がいない。その代わりに、私のような大学院生のアルバイトが閉館までのセンターの管理をするわけだ。

管理といっても事務室でただ座っているだけではない。学生への対応や、閉館時の施錠等の事務的な業務のほかに、調子の悪いコンピューターの世話もしなければならない。だから、計算機に関する技術的な知識もそれなりに必要である。私は物理の数値計算をしているので、少しぐらいの計算機の知識は持っている。それに、こういうところでアルバイトができるのは自分の研究上、何かと都合である。時給を考えると割にあわないと思うときもあるが、ま、それはいいだろう。コンビニよりはいくらかました。

さてと、計算の続きを始めよう。学会も間近にせまってきたし、早く結果を出さなければならない。研究室のワークステーションに接続して計算再開。ディスプレイ上にXを張り付ければ研究室での環境と全く同じである。これはセンターの端末に「NEXTSTEP」というOSを使っているからで、UNIXしか扱えない私にとっては非常にありがたい。

何を隠そう、この仕事に就くまで「NEXTSTEP」なんて聞いたこともなかった。「NEXTSTEP」の講習会に行くと、「純粋におぶじえくと指向を目指した、プログラミング環境であり……」。私には単語の意味さえわからない。Macの親玉のなんとかジョブズが開発した画期的なOSだそうだ。

後に、このOSがUNIXの親戚みたいなものであることを知り、胸をなで下ろした。UNIXならいつも使っているのだからユーザーレベル位のことなら知っている。実際、コマンドはUNIXと同じだし、Xも動く。これはUNIXそのものと違うんか？と思うが、助手のN登さんによれば「ちょっと違う」らしい。なにが違うんだ？まあいいや。

アルバイトの仕事を忘れて、数値計算に没頭していると学生が相談に来た。

「あのう……」

「どないしたん？」

「動かないんです……」

この手の相談が一番多い。端末の前に来て、ディスプレイを見ると、ポインターの円盤が回りっぱなしである。これはプロセスが終了しないということで、そのプロセスを強制的に終了させれば、ほとんどの場合問題は解決する。よかった。これくらいなら軽傷だ。

重傷になると、マウス、キーには反応しない、リモートコントロールしたくても接続できない、という状態に陥る。こうなると電源を落として立ち上げ直すしか方法がない。ハードディスクの接続ランプがついた状態で電源を落とす羽目になったこともある。

最も怖いのは、学生がいきなり電源をおとすことで、運が悪ければハードディスクを物理的に壊すことになる。おかげでセンターの端末約100台の内10台近くが故障中という時もあった。

事務室に戻り、先ほど実行した計算の進展具合をながめる。今やっている計算自体はG研究所のスーパーコンピュータSX-4がやっているので非常に速い。ただし利用者も多くて、思った時間に計算できないこともある。学会直前になると混みまくって大渋滞だ。

N社製のSX-4はアメリカでダンピングに引っかかった機種である。なんでもアメリカのC社が圧力をかけて、N社がアメリカでこの機種を販売できなくしたらしい。せこい話だ。堂々と価格競争もできないとは、アメリカの保護主義もここまで来たのか。日本ですら酒税法を改正して市場開放してではないか。おかげでブラックニッカが千円になった。あっ、これは日本のウィスキーか……

それにしても今日のセンターは大入りである。今、会計検査院の連中が来たらさぞかし喜ぶだろう。センターの建物ができるかもしれない。だが、利用する学生の数に比例して相談、質問、コンピューターの故障も多くなる。私にとってはあまりうれしくない。特に今日はレポート提出前で、質問が非常に多い。一人の対応をしているうちに、次の質問者が事務室をのぞきこんでいる。もう自分の計算どころではなくなってきた。

大抵の質問、相談にはできるだけの対応を心がけているが、自分のパスワードを忘れて聞きにくる場合は別である。パスワードは自分で管理するものであり、人に教えたり、教えられるものではない。私に聞かれても知らないし、知るすべもない。この手の質問には「知りません。コンピューター管理者に聞いて下さい。」でおしまいである。ただし、授業中はすぐに教えてもらえる。これはログインできないと授業にならないからであり、非常手段的な対応であって、そのへんを勘違いしている人がいる。講義をしている先生のなかにはパスワードの管理について言及しない人もいて、こちらは大変迷惑である。

対応に追われるうちに、8時になった。外を見るともう真っ暗だ。5時頃の混雑ぶりに比べれば、いくらか空いてきたが、レポートを書いて頑張っている人がまだまだ大勢いる。なかには

WWWでエッチなサイトを見ている連中もいる。会計検査院が泣くぞ。

事務室でコーヒーを飲み一息ついていると、プログラムに関する質問が来た。どれどれ、とディスプレイを見ると、数式のなかに見慣れない言語がある。

「これ、何で書いたん？」

逆に、まぬけな問いをすると、パスカルで書いたと言う。げげ。俺はフォートラン言語しか知らんちゅうねん。

「ふーん… C言語に似てるねー。」

と、わけのわからないことをのたまいつつ、その人が持っていたパスカルの教科書をカンニングしながらではあるが、何とかコンパイルまでこぎつけた。どうやら変数の定義が間違っていたらしい。パスカルを知っていればすぐに答えられるだろうに、かなりの時間を費やしてしまった。

だいたい、フォートランしか知らないと言うのも視野が狭いのかもしれない。コンピュータ犯罪追跡の著作で有名な天文学者は、フォートラン言語のことを古典ラテン語に例えていた。すると俺は時代遅れの爺さんみたいなものだろうか。でも、物理関連の数値計算はほとんどフォートランで書かれている。現にスパコンの場合、フォートラン以外の言語だとベクトル化、並列化による高速化は難しい。数値計算の分野ではフォートランはまだ現役である。私はアプリケーションを開発するわけでもないし、わざわざ他の言語を習得する必要もないだろう。フォートランだけで事足りる。なんだか益々、がんこ爺さんみたいだ。

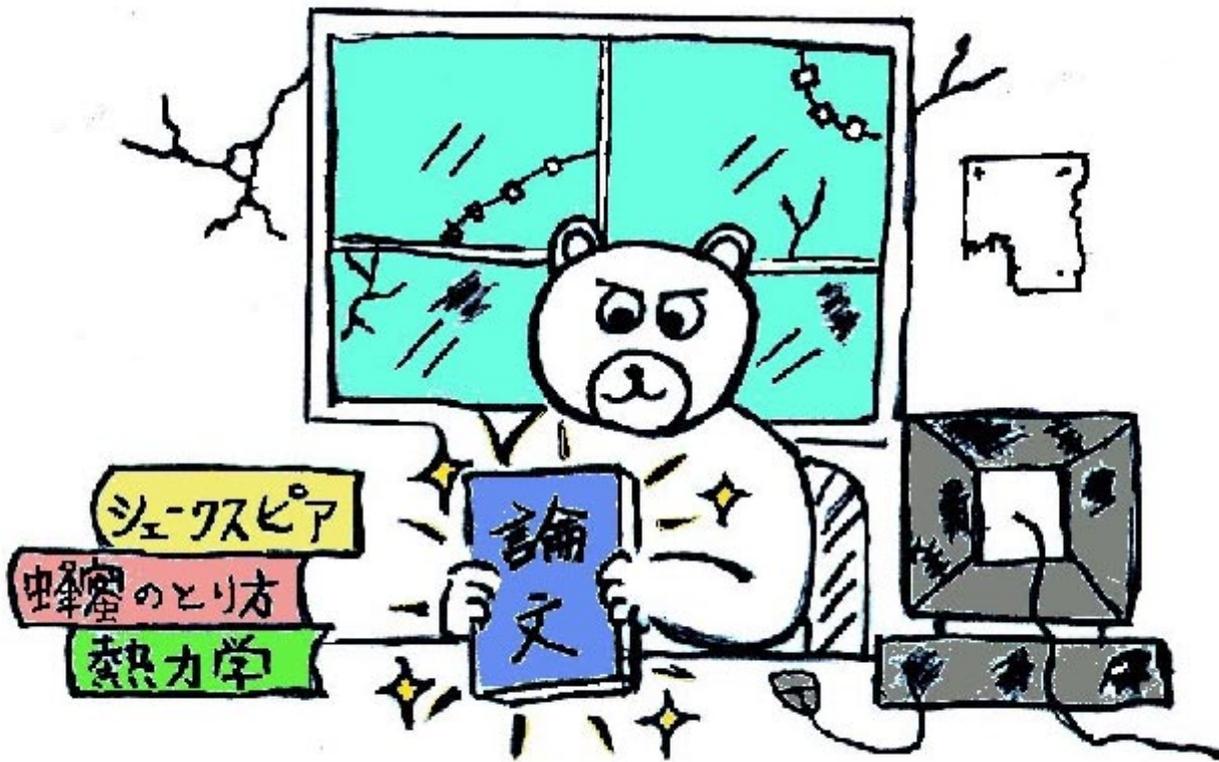
9時になった。閉館の時間である。いつもは数人しか残っていないが、今日はレポートの課題で帰りに帰れない人が結構いる。かわいそうだけれど、時間は時間だし、帰ってもらうしかない。書きかけのレポートをセーブすることと、明日は土曜日だが、レポート提出のために特別に開館することをアナウンスして、全員帰ってもらう。

さてと、残りの仕事はコンピュータ以外の電源を落とし、センターの鍵をかけて帰るだけ。今日は疲れた。そのまま自宅に帰ろう。いやまて、何かするべきことを忘れていた。そうだ、数値計算の途中だった。質問に追われるあまり、すっかり忘れていた。書きかけの論文なんて、持っていったのにも見てもない。とほほ、研究室に戻るか。

(せんばち記)

(S君は月曜と金曜の夜番を担当してもらっています。センターに来たら激励してあげてください)





貧しくても、
コンピュータネットワークで知的生活

Email from

Subject: ピッツァマルゲリータ

「いけいけUNIX」(J.R. レビン、M.L. ヤング、アスキー出版局)によれば、ほとんどのUNIX技術者タイプの人たちの、最大の好物はピザなのだそうですが、みなさんはどうでしょう。イタリアのナポリ大学数学科のR先生から本場のピザについて教えていただきました。

ピッツァ・マルゲリータはお好きですか？ まっ白なモッツアレラチーズ、まっ赤なトマト、そして緑のバジリコを少々。イタリア国旗の三色を入れておしまい。もっともシンプルで、安くて、そしてなんととってもおいしい！

ナポリの町で、おじさんが大きなお腹に白いエプロンをバシッとして、粉をくるくる回し始めたかとおもうと、もう緑の盛り上がったピッツァの台が手品のように現れ、巨大なおかまに入れると、見るまにジューと焼き上がって、はい、プロント（出来上がり）

イタリアが統一されてまだまもない一八八九年六月のある日、マルゲリータという名の女王さまが、どうもおいしいピッツァがない、私の気に入るピッツァを作りなさいと、当時のピッツァ作りの名人ラファエレ・エスポジトに命じて作らせたのが、このピッツァ・マルゲリータなのだそうです。それからおよそ百年、今ではもっともポピュラーで、イタリア人のもっとも好むピッツァになりました。余計なものを入れた

ものをピッツァと呼ばせないような法律を作ろうという「純粋なピッツァを守る会」もあります。

今では世界中で食べられるようになったピッツァ。日本ではいかがでしょう。おいしいお店がありますか？ 本当においしいピッツァは、円盤の形をした台の縁の部分までやわらかく、とても深い味です。

おいしいピッツァの秘密を、ナポリで最も古いお店の一つで、本格的なピッツァを食べさせるサルバトーレ・アッラ・リエラへ行って、おじさんに聞いてみました。ふんふん、ピッツァをおかまに入れると同時におがくずをぱっと燃やして一気に温度を上げるのですか。台をこねるのはむずかしそうだけど、一生懸命練習したら日本でも作れますかって聞いたら、ピッツァ作りのおじさん大笑い。おじさんのいうには、このあいだも日本から料理研究家という人が来て、たくさんノートをとっていきましたけどね、日本にバッファローがいますか？ 本当においしいピッツァに絶対欠かせないのが、バッファローのお乳から作ったモッツアレラチーズなんですよ。バッファローはイタリアでも南のほうにしかいませんからね。モッツアレラは生チーズで日持ちしないから輸出できないし。おいしいピッツァを日本で作ろうと思ったらまずバッファローの飼育から始めなければいけません。

うーん、これではしかたがない。おいしいピッツァを食べたいときは、ナポリまで来てください。